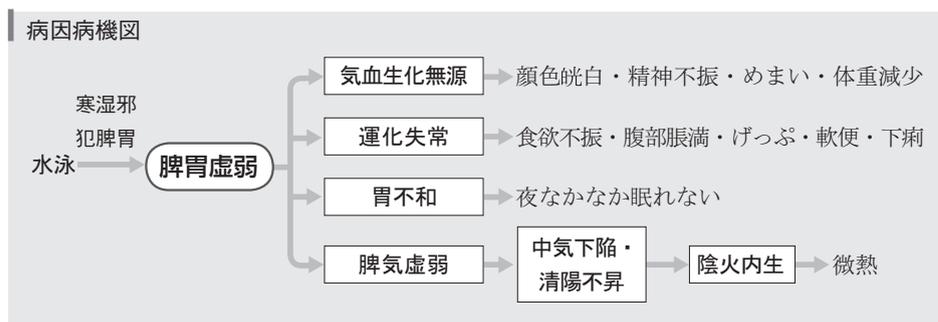


は気虚またはアレルギー体質者に特によくみられるものである。脾胃区の灰色丘疹＋肺区の多量の屑，これは，気虚の重症である。臨床には十分注意が必要となる。

●経絡診——本例の脈診・舌診・耳診はすべて脾胃の異常を表している。このため，経絡診は，脾経・胃経と脾胃に関連する経穴を調べなければならない。その結果，関連する経穴に圧痛，特に胃倉・足三里・上巨虚に索条隆起がみられた。

これらのことから，本症例の病が関連する臓腑は脾胃であり，経絡は脾経・胃経・小腸経であることがわかった。脾胃虚弱が本症例の基本弁証であり，脾胃虚弱の運化失調による内湿停滞が副次弁証である。



弁証のポイント

- 発熱は，まず外感発熱か内傷発熱かを区別する
- 繰り返す下痢・軟便は，脾気虚弱が根本原因
- 内湿の停滞は，副次弁証

アドバイス

脾気虚弱が気虚発熱のポイントである。発病が緩慢で，病歴が長く，体の消耗が著しいので治療は慎重に行うべきである。熱を下げるのは標治にすぎず，一時的な効果のみみられても，根本的な脾気虚弱が完治しなければ，熱はまた再発する。発熱の繰り返しは気を次第に消耗し，気虚がさらに重くなり，内熱を生じる。これが悪循環となって難病となる。熱に焦点をあわせて治療すると，満足のいく結果は得られないため注意が必要である。

弁証における鑑別点

- 本症例を，気血両虚，気滯湿蘊と弁証する人もいる。しかし，患者にはたしかに気虚の症状が存在するが，典型的な血虚の症状はまだ現れていない。したがって，気